

文書が映す安曇野の文化⑭ 作文

当館が公開している7万点を越す公文書資料の中に約8千点の「学校資料」があります。その詳細は、令和3年度当館「研究紀要」や当館HPを参照してください。この資料の中には、明治44年を最古に、各小中学校で発行され続けてきた児童生徒の作文集があります。日常の家庭生活や学校行事、地区行事、読書感想、出征兵士への激励、講和条約の受け止めなど多岐にわたる当時の子どもたちの思いが綴られています。時代による用語や文体の違いにも気づかれます。異世代で読み合わせをすると、新たな気づきが出て、話題が広がること間違いありません。



親子での読み合い
(令和7年2月15日豊科郷土博物館友の会)

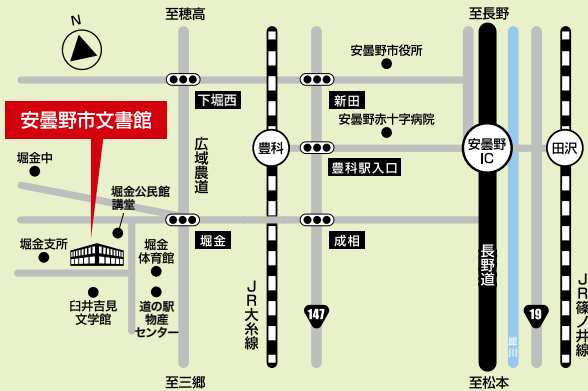


「温明教育第1号」
明治44年2月7日発行（三郷11970）

企画展等の予定

- 後期企画展 「手記 80年の時を超えて」
【期間】 令和7年9月14日(日)～12月28日(日)
・ 関連講演会
【日時】 9月21日(日) 13:30～15:00
【講師】 國學院大學准教授 柴田 紳一氏
・ 関連講座1 「7銭に載せた思い」
【日時】 10月26日(日) 10:00～11:30
【講師】 文書館館長 平沢 重人
・ 関連講座2 「安曇野で戦争を考える」
【日時】 11月16日(日) 13:30～15:00
【講師】 文書館職員 幅 国洋
- 古文書初級講座 全5回
【期日】 10月6、14、27日 11月10、25日(予定)
【時間】 10:00～12:00
- 大庄屋山口家講座
【日時】
① 令和8年1月18日(日) 13:30～15:00
② 2月22日(日) 13:30～15:00
③ 3月21日(土) 10:00～11:30(臨地講習)
- バックヤードツアー
【日時】 令和8年2月15日(日) 13:30～15:00

■安曇野市文書館 案内図■



利用案内

【開館時間】 午前9時～午後5時
【休館日】 土曜日、祝日
12月29日から1月3日
【駐車場】 約50台
(堀金支所・堀金公民館・堀金図書館共用)

ACCESS

長野自動車道安曇野ICから約5km、自動車約10分
JR大糸線豊科駅から約3km、自動車約6分

あとがき 当館は、今年開館8年を数えます。当初6万点に満たなかった収蔵資料が、令和6年度末には17万点を超えました。私たちは、安曇野市域の暮らしの変容を文書資料からたどることができます。AIをいくら駆使しても、地元で特化した史実に基づいた答えは導き出されません。今年、安曇野市は市制施行20年となります。私たちは、誕生ドキュメントを公文書から確認できます。



安曇野市文書館だより 第14号 編集・発行 安曇野市文書館 発行日：令和7年5月18日発行

〒399-8211 長野県安曇野市鳥川2753番地1 TEL 0263-71-5123 FAX 0263-71-5127
E-MAIL bunshokan@city.azumino.nagano.jp URL www.city.azumino.nagano.jp/site/bunsho/

安曇野市 文書館だより
第14号

前期企画展

安曇野市制施行20周年記念企画「安曇野市 誕生秘話」

企画展趣旨

平成17年10月1日にスタートした安曇野市は、今年、市制施行20周年を迎えます。生まれた時にはすでに安曇野市だったという方も多くなり、どのようにして安曇野市が誕生したのか、どういう経緯で旧5町村が合併することになったのか、知らない方も多いと思います。そこで、今回の企画展では、文書館資料を通して、安曇野市合併までの経緯や合併に向けての取り組みを紹介し、5つの町村が1つになるまでを振り返ります。そして、これからの安曇野市について考える機会とします。



「合併協定調印式の様子」(堀金6578)

期 間 令和7年5月11日(日)～8月29日(金)

会 場 安曇野市文書館1階閲覧コーナー 入館料 無料

講演会 「自立のための合併を選んだ安曇野市」

【開催日時】 令和7年7月13日(日)午後1時30分～午後3時(開場 午後1時)
【講 師】 細川 博水 氏 (元 安曇野地域任意合併協議会事務局長)

講座1 「公文書からたどる安曇野市の合併」

【開催日時】 令和7年5月18日(日)午後1時30分～午後3時(開場 午後1時)
【講 師】 松澤 果穂 (文書館職員)

講座2 「わたしたちの安曇野」子ども向け講座(小学生以上)

【開催日時】 令和7年8月3日(日)午後1時30分～午後3時(開場 午後1時)
【講 師】 千村 裕一 (文書館職員)
※大人の方も参加できます。

<講演会・講座>

参加費 無料

会 場 安曇野市
堀金公民館講堂

事前申込 必要
(電話、FAX、メール)

○講演会：5月27日(火)から
○講座2：6月24日(火)から

安曇野市文書館
ホームページ▶▶



安曇野市の誕生

あつみの
○新市の名称は「安曇野市」

「安曇野市」の名称は、町村合併に関する住民アンケート調査(平成16年1月実施)で挙げられた候補をもとに住民意向調査を行い、第7回安曇野地域合併協議会(平成16年12月14日)で協議・決定し、発表セレモニーが行われました。

住民アンケートでは、「合併すると仮定した場合、どんな新市名称がいいと思いますか」という問いに対して、1,147種類もの回答が寄せられました。右の表は上位20位の新市名称です。この時点で既に、約50%の人が「安曇野市」がよいと回答していることがわかります。そして、平成16年11月に、上位4つの名称(①安曇野市、②安曇市、③あづみ野市、④あずみ野市)を候補として、住民意向調査を実施しました。その結果、回答者の59%が「安曇野市」を選択しました。これらの結果も踏まえ、合併協議会では新市の名称を「安曇野市」と決定しました。合併協議会の議事録には、他にもたくさんの新市名称の案が掲載されています。どんな案が出たのか、ご興味のある方は議事録をご覧ください。

また、新市の名称の意向調査とともに行われたのが、町名・字名をどうするかという調査です。調査の結果では、「旧町村名なし・大字なし」(〇〇市南穂高、〇〇市有明、等)が37%と最も多く選ばれ、「旧町村名あり・大字なし」(〇〇市豊科南穂高、〇〇市穂高有明)が33%と続きました。そして、第7回合併協議会で協議の結果、旧町村名は残すということに決まりました。歴史ある旧町村名を残したいという思いが、各町村とも強かったことが協議会議事録から窥えます。

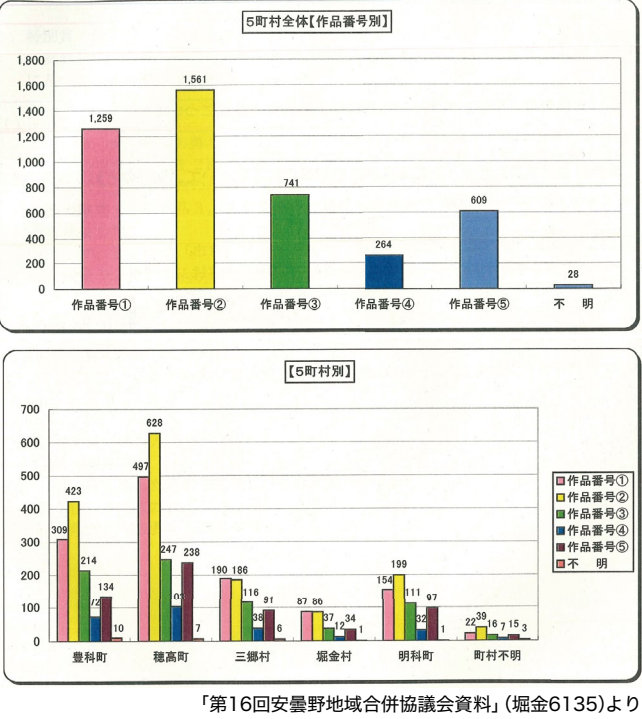
「広報とよしな 平成16年8月号」(豊科4956)より▶

今年1月実施の住民アンケートで 回答の多かった新市名称 上位 20			
No.	名 称	総 数	名称回答数に 占める割合(%)
1	安曇野市	17,785	51.36%
2	安曇市	3,536	10.21%
3	あづみ野市	2,820	8.14%
4	あずみ野市	1,985	5.73%
5	あずみの市	1,530	4.42%
6	あづみの市	1,304	3.77%
7	あづみ市	1,055	3.05%
8	あずみ市	666	1.92%
9	南安曇市	394	1.14%
10	アルプス市	284	0.82%
11	北アルプス市	235	0.68%
12	南安曇野市	154	0.44%
13	常念市	137	0.40%
14	安曇平	97	0.28%
15	アズミ市	77	0.22%
16	信州市	77	0.22%
17	アズミノ市	74	0.21%
18	信州安曇野市	72	0.21%
19	信濃市	42	0.12%
20	新安曇野市	37	0.11%
	白鳥市	37	0.11%

※新市名の回答総数は住民アンケートに回答した
58,281人のうち、34,626人

○市章のデザイン

新市の名称と同じく、市のマークである市章のデザインも住民意向調査が行われました。市章のデザインは平成17年4月1日から5月2日にかけて募集し、全国から3,201点の応募がありました。そして、応募作品の中から「市章選考小委員会」が選んだ最終選考作品5点について住民意向調査を行いました。その結果、回答者の35%が安曇野市の「安」の文字を図案化した作品番号②を選択しました。そして、この結果も選定要件の1つとして、第16回安曇野地域合併協議会(平成17年7月12日)で協議の上、作品番号②のデザインに決定しました。最終的には、グリーンとオレンジの接する部分に白のラインが入り、現在のデザインになりました。



地理的手法で歴史を解き明かす「南安曇郡の用水堰網及び耕土分布」

令和6年度、市教育委員会に小穴喜一氏作成の「南安曇郡の用水堰網及び耕土分布」が寄贈されました。

氏は北安曇郡北城尋常高等小学校を皮切りに安曇平を中心に県内の学校で教鞭をとると共に、自身の研究である地理学の観点から地表を眺め地形・土壌の観察を常にしていました。氏はかねてから自分の生まれ育った安曇平の人々の営みや歴史を、地形や土壌など地表面象の実測・計測から明らかにしようと試み、梓川左岸(南安曇郡)の用水路網と耕土の深さを地道に丁寧^{けんどうじょう}に踏査しました。氏は目的の地域に何度も足を運び、田畑一枚ごと「検土杖(手動ボーリング)」を突き立て、フィールドノートに記した数値を一点ずつつなげていきました。広大な梓川左岸を10年(1948～1958年)かけて踏査し、「南安曇郡の用水堰網及び耕土分布」を作り上げました。歴史を明らかにする切り口として独自の研究、「今見える地表面象の測定」を加え、地域の歴史解明に大きな功績を残しました。

梓川が平地に流れ出す八景山から立田地籍の部分(右図)を見てみましょう。他の地籍にはない耕土深度70cmの「ふけ田」と呼ばれる湿田が広く分布し、「降簷田圃」が生産性の高い良田であったことが分かります。この地が西牧氏の繁栄に有利な条件をもたらしたといえます。古文書などの文献資料からいわれていたことが、この分布図によって地理学的な数値により検証されました。このように安曇平の集落発展は、西山の沢水、段丘下の湧水、梓川を利用した用水堰の伸延による水田の広がりとともにあります。「降簷田圃」から段丘に沿い耕土の深い土地を探り下流に発展していることが分かります。

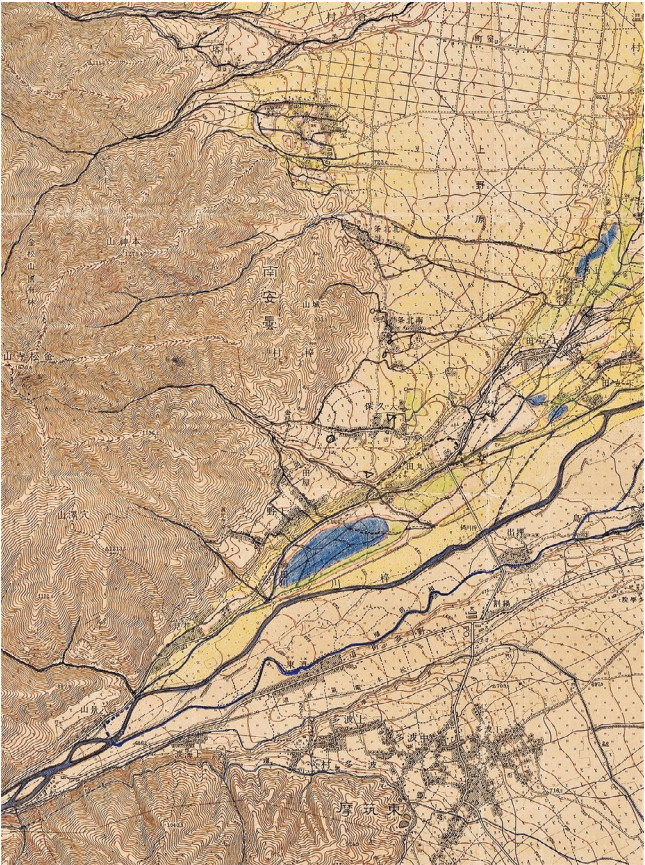
「南安曇郡の用水堰網及び耕土分布」のごく一部についてみてみました。文書館では、多くの皆様に接していただきたく、この分布図を複製しました。閲覧室に常設展示していますので、自分の住んでいる地域を知る手掛かりにしてほしいと思います。

また、小穴喜一氏の著書には『土と水から歴史を探る(昭和62(1987)年7月10日 信毎書籍出版センター)』、共著『南安曇郡誌』・『穂高町誌』・『豊科町誌』・『三郷村誌Ⅰ』などがあります。そして、雑誌「信濃」には多くの研究論文が記載されています。著書は市図書館で閲覧することができます。



小穴 喜一
(明治43(1910)年-平成13(2001)年)

明治43(1910)年6月13日 南安曇郡高家村真々部(安曇野市豊科高家)生まれ。
長野県師範学校専攻科卒業後県内小中学校に勤務。北安曇郡池田町立高綱中学校長を最後に退職。信濃史学会監事。
平成13年8月3日 永眠



「南安曇郡の用水堰網及び耕土分布」部分